



LDR 助産師
高田 華

無痛分娩のお産について

希望に溢れる新年を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

近年、全国的に無痛分娩の普及が進み、2018年には5.2%だった無痛分娩率が、2023年には13.8%に増加しています(厚生労働省)。当院でも無痛分娩を選択される妊婦さんが増えてきています。

そこで今回は、当院での無痛分娩についてお話したいと思います。

無痛分娩とは

無痛分娩は、陣痛の痛みを麻酔を使って和らげるお産の方法です。背中から細い柔らかいチューブ(直径1mm程度)を入れ、そこからお産が終わるまで痛み止めのお薬を注入します。お腹から足、お尻にかけての感覚が鈍くなり、陣痛の痛みが和らぎます。無痛分娩を始めたあとはベッド上で過ごし、お産が終わったらチューブからの薬剤注入を止めます。その後、徐々に麻酔の効果が切れてきて、数時間後にはもとの感覚に戻ります。

無痛分娩のメリット・デメリットについて

【メリット】

- 痛みが和らぎ心身がリラックスすることで、産道が軟らかくなり開きやすくなります。また、お産中の体力消耗が少ないため、産後の回復が早いとも言われています。

【デメリット】

- 麻酔の作用によって陣痛が弱くなったり、回旋異常といって赤ちゃんが上手に回らず降りてこないことがあります。そのため、お産の時間が長くなる場合があります。
- 陣痛が弱くなり、お産が進まなくなると、お産を進めるために陣痛促進剤を使うことがあります。
- 麻酔で感覚が低下し、陣痛のタイミングが分かりにくくなるため、上手いきめなくなることがあります。このような場合、赤ちゃんが生まれ出るのを助けるため、吸引分娩、鉗子分娩、クリステル胎児圧出法を行う頻度が高くなります。
- ベッド上で過ごすため、定期的な導尿(尿意が分からなくなるため)が必要になります。
- お産の時間が長くなると、褥瘡(床ずれ)が出来る可能性があります。

麻酔によって起こりうる症状について

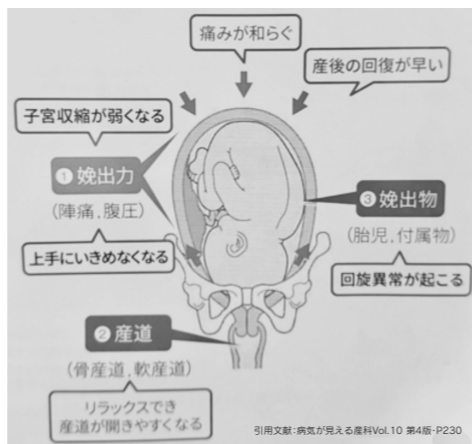
【一般的な症状】

- 足の力が入りにくくなる場合があります。
- 使用のお薬によってかゆみが出る場合があります。
- 血圧が下がることがあります。
- 排尿感が弱くなる場合があります。
- 体温が上がる場合があります。

【まれに起こる重い症状】

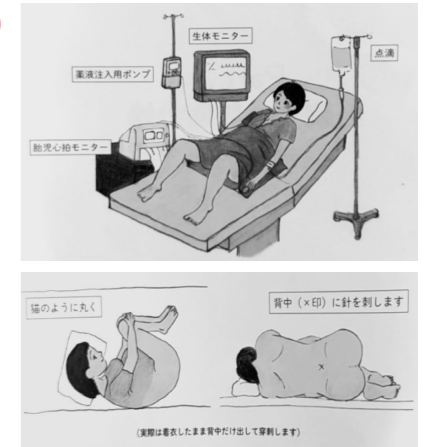
- 予期せず、脊髄も膜下腔にお薬が入ってしまい、重症の場合は呼吸ができなくなったり、意識を失ったりすることがあります。
- 血液中のお薬の濃度が高くなり、中毒症状がでることがあります。
- 麻酔の針の影響で強い頭痛が起き、場合によっては処置が必要になることがあります。
- 硬膜外腔や脊髄も膜下腔に血のかたまりや膿がたまり、手術が必要になることがあります。

メリットとデメリット



無痛分娩の流れ

- ① 麻酔をする前に、胎児心拍モニターを装着し、点滴を行い、心電図・血圧計などのモニターをつけます。
- ② 硬膜外麻酔を始めます(チューブを入れます)。横向きになって背中を丸くします。丸くすることで背骨の隙間が広がります。
- ③ 最初にチューブが適正な位置にあるか少量のお薬を入れて確認します。
- ④ 適正な位置にあることが確認できたらお薬を追加して麻酔の効果をみます。
- ⑤ 麻酔が効いてきます(それに伴って副作用も出てきます)。
- ⑥ お産の進行に伴って痛みが強くなってきたり、痛みの部位が変わってきたりします。
- ⑦ 赤ちゃんが生まれた後も、胎盤が出てお産の処置(会陰縫合など)が終わるまで麻酔を続けます。
- ⑧ 必要な処置が終了後、チューブを抜きます。2時間くらいで麻酔の効果は取れます(個人差があります)。その後は通常のお産と違いはありません。尿意があっても排尿が出来るまで数時間かかることがあります。麻酔後、急に立ったり座ったりすると、立ちくらみや膝折れを起こすことがあるため、初歩行時にスタッフが付き添い、問題がないか確認します。



無痛分娩についてのQ & A

●麻酔を始めるタイミングはいつですか？

陣痛は徐々に強くなっていきます。痛みの感じ方には個人差がありますが、子宮口が3~4cmに開いてくると痛みを強く感じる方が多くなってきます。

子宮口の開き具合と赤ちゃんの心音の状態を見ながら麻酔を始めます。

準備から麻酔の効果を得られるまでに最低でも1時間程はかかります。

●無痛分娩中の食事・飲水はどうなりますか？

麻酔開始後、1~2時間程は絶食となります。それ以降は様子を見ながら、食事や飲水ができます。

●赤ちゃんに影響はありますか？

無痛分娩に使うお薬が胎盤を通過しても赤ちゃんへの直接の影響はほとんどありません。麻酔が効いてきて急激に痛みが取れた場合に、一時的に子宮の収縮が強くなりすぎて、赤ちゃんの心拍数が低下することがあります。麻酔中は赤ちゃんの心拍数を常にモニターし、状態の変化を確認します。

●授乳に影響はありますか？

無痛分娩に使ったお薬が、乳汁中にわずかに出てくる可能性はありますが、それが赤ちゃんに影響を及ぼすことはありません。通常通り授乳できます。

●無痛分娩ができない時はどんな時？

赤ちゃんの心音の低下や母体の血圧の上昇により産科医師の許可がない時、血小板の値が10万以下で麻酔科医師の許可がない時、赤ちゃんの発育が著しくみられない時などです。

●費用はどれくらいかかりますか？

検査や処置など無痛分娩を実施することで、通常の出産費用に加えて別途料金がかかります。当院での無痛分娩の基本料金は3~6万円です。入院期間や麻酔時間によって異なります。

※麻酔の効き方には個人差があります。

痛みがそれほど軽減できなくても、実施した場合は料金が発生します。

◇おわりに

お産が進むにつれて、痛みの感じ方も変化していきます。今現在、妊娠されている方で“お産の痛みに耐えられるかな？”と不安になられている方も多いと思います。陣痛は、子宮の収縮によって子宮の出口を開き、収縮の規則的なリズムの波によって、赤ちゃんのお肌をマッサージしています。これは、赤ちゃんが自分で呼吸ができるようにするためと、温度変化など、体外の生活に適應させるために役立っています。お産の痛みは筋肉や神経を引っ張ったり、圧迫したりするもので、赤ちゃんがこの世に生まれたいと意志を示す目的のある痛みです。お母さんや赤ちゃんの状態は常に変化するので、直前で無痛分娩ができなくなることもあります。ご不安やご不明な点がありましたら、遠慮なくスタッフにお声掛けください。皆様のお産が安全でより良いものになるよう、全力でサポートさせていただきます。